

【福岡女学院教会 主日家庭礼拝】

2025. 2. 2.

降誕節 第6主日

黙想(黙禱)

招詞 神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。  
独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。  
(『讃美歌21』93-1-20)

讃美歌 545 (まことの神)

主の祈り

讃詠 83 (聖なるかな)

聖書 創世記 28章10節～22節  
(旧約 46頁)

信仰告白 使徒信条

メッセージ 「この石を神に」 多田玲一牧師

祈禱 ※それぞれ自由にお祈り下さい

讃美歌 79 (みまえにわれらつどい)

頌栄 24 (たたえよ、主の民)

黙想(黙禱)

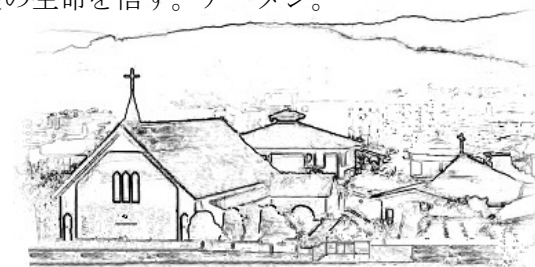
◎ 讃美歌は歌詞を読むだけでも結構です。

【主の祈り】 (『讃美歌21』93-5-A)

天にまします我らの父よ、ねがわくはみ名をあげさせたまえ。  
み国を来(きた)らせたまえ。  
みこころの天になるごとく 地にもなさせたまえ。  
我らの日用(にちよう)の糧(かて)を、今日も与えたまえ。  
我らに罪をおかす者を我らがゆるすごとく  
我らの罪をもゆるしたまえ。  
我らをこころみにあわせず、悪より救い出(いだ)したまえ。  
国とちからと栄えとは 限りなくなんじのものなればなり。  
アーメン

【信仰告白 使徒信条】 (『讃美歌21』93-4-A)

我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。  
我はその独り子、我らの主、イエス・キリストを信ず。  
主は聖霊によりてやどり、処女マリヤより生れ、  
ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、  
十字架につけられ、死にて葬られ、陰府にくだり、  
三日目に死人のうちよりよみがへり、  
天に昇り、全能の父なる神の右に坐したまへり、  
かしこより来りて、生ける者と死ねる者とを審きたまはん。  
我は聖霊を信ず、聖なる公同の教会、聖徒の交はり、罪の赦し、  
身体のよみがへり、永遠の生命を信ず。アーメン。



日本基督教団 福岡女学院教会

牧師 多田玲一

協力牧師 青木麻里子、大島一利

〒811-1321 福岡市南区柳瀬1丁目41-32

TEL 092-591-5627 (Fax 兼)

教会ホームページ [http:// www.fukujoch.com/](http://www.fukujoch.com/)

(教会創立 1946年6月2日)



◆ヤコブの夢

- 10 ヤコブはベエル・シェバを立ってハランへ向かった。
- 11 とある場所に来たとき、日が沈んだので、そこで一夜を過ごすことにした。ヤコブはその場所にあった石を一つ取って枕にして、その場所に横たわった。
- 12 すると、彼は夢を見た。先端が天まで達する階段が地に向かって伸びており、しかも、神の御使いたちがそれを上ったり下ったりしていた。
- 13 見よ、主が傍らに立って言われた。  
「わたしは、あなたの父祖アブラハムの神、イサクの神、主である。あなたが今横たわっているこの土地を、あなたとあなたの子孫に与える。
- 14 あなたの子孫は大地の砂粒のように多くなり、西へ、東へ、北へ、南へと広がっていくであろう。地上の氏族はすべて、あなたとあなたの子孫によって祝福に入る。
- 15 見よ、わたしはあなたと共にいる。あなたがどこへ行っても、わたしはあなたを守り、必ずこの土地に連れ帰る。わたしは、あなたに約束したことを果たすまで決して見捨てない。」
- 16 ヤコブは眠りから覚めて言った。  
「まことに主がこの場所におられるのに、わたしは知らなかった。」
- 17 そして、恐れおののいて言った。  
「ここは、なんと畏れ多い場所だろう。これはまさしく神の家である。そうだ、ここは天の門だ。」
- 18 ヤコブは次の朝早く起きて、枕にしていた石を取り、それを記念碑として立て、先端に油を注いで、
- 19 その場所をベテル（神の家）と名付けた。ちなみに、その町の名はかつてルズと呼ばれていた。
- 20 ヤコブはまた、誓願を立てて言った。「神がわたしと共におられ、わたしが歩むこの旅路を守り、食べ物、着る物を与え、
- 21 無事に父の家に帰らせてくださり、主がわたしの神となられるなら、
- 22 わたしが記念碑として立てたこの石を神の家とし、すべて、あなたがわたしに与えられるものの十分の一をささげます。」

※聖書は本文は全て、日本聖書協会『聖書 新共同訳』